

令和4年度川越市提案型協働事業補助金 事業実績報告書

協働事業名称	日本語ボランティア育成講座
団体名	特定非営利活動法人日本語教育ネットワーク
市担当課名	国際文化交流課
事業の目的	地域に急増する外国籍住民に対して日本語や生活の不便をサポートするボランティアを育成するための講座
事業の実施内容	9月から毎週水曜日10回18時からの講座 第1回から5回は座学 ①教育⇒支援⇒共生の流れの中で日本語をサポートする心構えや方法 ②国際交流基金テキスト作成者の「生活者の日本語」の教授法 ③④日本語の構造 四技能 音声 文法 ⑤模擬授業のデモンストレーション ⑥～⑨モデルチューデントとの模擬授業 ⑩受講生のプレゼン大会 日本語授業
事業実施時における市との役割分担	市報での受講生募集 受講生抽選 連絡 アンケート 外国籍住民データ提供 講師選定 講座内容検討会議 内容検討作成 web資料作成 10回授業 モデルチューデントとの打ち合わせ 受講生への日本語クラス案内
事業の成果	①川越市の外国籍住民の数、国籍、資格などの最新のデータ、彼らの具体的な困り事や地域住民との価値観のずれ等の実態を受講生と共有できた。 ②外国籍住民への支援（言葉をツールに）をするということについて社協の視点からの「ボランティア精神」を学べた。 ③文化庁の流れに沿って、今までの留学生対象の日本語教育ではなく「生活者の日本語」の支援の仕方を学べた。 ④日本語の構造について、知識習得の仕方を優先順位で伝えることができた。モデルチューデントとの模擬授業では、受講者が以前より異文化交流や日本語支援に上記講座内容で得た視点を活かしており、これから川越での多文化共生社会づくりのメンバーになっていただけると確信した。
協働事業として継続する場合の課題とその対応策	<課題> 誕生したボランティアを活かす場所が少ない <対応策> 地域サテライト日本語クラスや大学や民間教育機関との連携で学校現場の生徒児童や不就学児童の日本語支援に取り組みたい
補助金が終了した場合の当該事業の見通し	地域発公民館での人材づくり、大学との連携づくりなどが先決であると考えている

※様式第8号「川越市提案型協働事業補助金実績報告書」に添付してください。

令和4年度川越市提案型協働事業補助金 事業実績報告書

協働事業名称	川越いも作り270周年記念事業
団体名	川越サツマイモ商品振興会
市担当課名	産業観光部 農政課
事業の目的	2021年は、川越地方のサツマイモ作りが寛延4年（1751）に始まって270年の記念年で「川越いも作り270周年記念事業」に取り組んだが、大きな目標であった記念冊子を発行することができなかった。そのため、継続事業として2022年度も取り組んだ。
事業の実施内容	①川越いも作り270周年記念冊子「川越いも歴史文化学」編集作業。現在、3分の1程度まで作業が進んだが、まだ発行までに至っていない。 ②川越いも文化PR活動（10月13日いもの日まつり、11月お芋フェステェバル、12月いも神事）の推進。 ③川越いも文化学セミナー（3回）の開催。10月6日「川越いも菓子文化の魅力」（芋せんべい工場見学）10名、10月30日「大学芋文化の伝統と魅力」17名、12月17日「焼き芋文化の伝統と魅力」25名。会場：サツマイモまんが資料館。
事業実施時における市との役割分担	川越イモ商品振興会は、記念冊子の編集作業、川越いも文化PR活動、川越いも文化学セミナーの開催を主に実施した。 農政課では、主に川越いも文化PR活動をサポートしていただいた。
事業の成果	川越いも文化学セミナーは、おいものシーズンの10月～12月にかけて3回開催し、講義ばかりでなく、芋せんべい工場見学・大学芋食べ比べ・焼き芋食べ比べなどを行い、参加者の好評を得た。また、川越いも文化などのPR活動を、農政課等の協力・サポートを得て、いもの日まつり・お芋フェステェバル・いも神事等を行った。 記念冊子については、まだ3分の1程度の部分までいったところであるが、引き続き編集作業を続けていきたい。
協働事業として継続する場合の課題とその対応策	農政課ばかりでなく、産業観光部とも連携をとり、川越の産業観光振興のために、川越いも文化推進の事業内容について、いろいろ相談して進めていきたい。
補助金が終了した場合の当該事業の見通し	「川越いも歴史文化学」記念冊子の編集作業を継続してすすめ、はやく発行にたどりつきたい。

※様式第8号「川越市提案型協働事業補助金実績報告書」に添付してください。

令和4年度川越市提案型協働事業補助金 事業実績報告書

協働事業名称	がくどうigoサポート&キャラバン事業
団体名	川越igoまち倶楽部
市担当課名	教育総務部 教育財務課・地域教育支援課
事業の目的	中学校の囲碁部創設を視野に、市内32の小学校に併設された「学童保育」と、1か所の「放課後子供教室」を対象とする囲碁普及事業。市内の囲碁団体と連携し、囲碁の習得のみならず、囲碁が内包する力（思考力・集中力・決断力・忍耐力・コミュニケーション力・礼儀等）を活用し、子どもたちの人間力育成と、多世代交流による安心できる居場所づくりを目指す。
事業の実施内容	<p>①「囲碁教え方ガイド」（子どもの特性を踏まえた講師用指導書）の作成：R4.6/17発行（250部）</p> <p>②囲碁教え方勉強会（キャラバン隊の講師を対象とする実践講座）：R4.6/14実施 16名参加</p> <p>③放課後子供教室へのキャラバン隊派遣（1学期）：R4.6/20,23実施 延べ52名参加</p> <p>④水間俊文八段による囲碁勉強会（学童保育支援員等対象）：R4.7/11実施 47名参加</p> <p>⑤学童保育へのキャラバン隊派遣（夏休み）：R4年8月に11回派遣 児童219名参加</p> <p>⑥放課後子供教室へのキャラバン隊派遣（2学期）：R4.10/13,31,12/1実施 延べ80名参加</p> <p>⑦学童保育へのキャラバン隊派遣（2学期・冬休み）：R4年11月～R5年1月に13回派遣 児童237名参加</p> <p>⑧放課後子供教室へのキャラバン隊派遣（3学期）：R5.2/13実施 23名参加</p> <p>⑨実施報告書作成：R5.2/24作成（200部）</p>
事業実施時における市との役割分担	川越igoまち倶楽部の役割 ～学童保育、放課後子供教室において、囲碁を通じての次世代育成、多世代交流
	川越市の役割 ～学童保育や放課後子供教室との連絡調整、研修の設定、アンケートの実施、その他アドバイス
事業の成果	<p>担当課・学童保育支援員・放課後子供教室スタッフ、囲碁出前講座の講師&スタッフの多大なご理解とご協力をいただき、令和4年度のキャラバン事業は、当初の予想をはるかに上回る形で終了しました。</p> <p><キャラバン隊 派遣実績></p> <ul style="list-style-type: none"> ●学校数でカウント ⇒16校 ●訪問回数でカウント⇒30回 ●参加児童数でカウント⇒延べ611名 <p>また、関係者へのアンケート調査では、キャラバン隊派遣を希望した理由、囲碁講座を実施して良かったこと、感想・要望など、今後につながる貴重なご意見を、たくさん頂戴しました。よって、内容を精査し、今後の事業推進に生かしつつ、本事業が掲げる目的に向かって引き続き取り組んでいく所存です。</p> <p>※詳しくは、別添の「令和4年度川越市提案型協働事業 がくどうigoサポート&キャラバン事業」報告書をご覧ください。</p>
協働事業として継続する場合の課題とその対応策	<p><課題></p> <ul style="list-style-type: none"> ・囲碁講座の内容や進め方の再検討：学童保育支援員等へのアンケートも踏まえて方向性を検討し、スタッフ間での共有を図る。 ・キャラバン隊スタッフ体制の見直し：市内囲碁活動団体との連携を強化するなどにより、充実を図る。
補助金が終了した場合の当該事業の見直し	学童保育、放課後子供教室での囲碁講座の有効性が認められたため、可能な範囲で、自主財源の確保に努めながら、キャラバン隊派遣（出前講座）を継続実施していきたい。

※様式第8号「川越市提案型協働事業補助金実績報告書」に添付してください。

令和4年度川越市提案型協働事業補助金 事業実績報告書

協働事業名称	川越的場八景蟹ヶ渚再生事業
団体名	川越的場八景蟹ヶ渚再生する会
市担当課名	河川課
事業の目的	地域の先人が的場八景として蟹ヶ渚を往時のように再生させ、市民憩いの場を創出する。
事業の実施内容	蟹ヶ渚の再生に関する公益活動を行い、環境保全、憩いの場として土地を整備する。また、藤棚を作り、市の木カシ、市の花山吹の植樹。サツマイモ、水仙等の植込みを行う。
事業実施時における市との役割分担	河川課との調整を図り、境界確認と敷地内整備を協議し、事業遂行を進める。
事業の成果	市有地蟹ヶ渚の清掃、緑化、遊歩道化を進め、市民憩いの空間を創出する。 渚北側地中の埋設物を除去し。耕地化を図った。 渚南側に藤棚を設置。藤、水仙、アヤメ等を植付けた。 渚下流両岸の除草を実施し、遊歩道化を着手。 市クリーンパートナーに認定。 清掃活動を定例化した。
協働事業として継続する場合の課題とその対応策	自主財源の確保が課題。 現地案内の手法を模索。
補助金が終了した場合の当該事業の見通し	継続して事業遂行。

※様式第8号「川越市提案型協働事業補助金実績報告書」に添付してください。

令和4年度川越市提案型協働事業補助金 事業実績報告書

協働事業名称	コミュニティラジオでアクティブ防災
団体名	株式会社小江戸FM
市担当課名	防災危機管理室
事業の目的	防災に強いといわれるメディアとしてラジオに強い期待が持たれています。川越市防災危機管理室と協力し、社会的弱者の方、障害を持つかなどを含め、幅広い年齢層の防災意識高めるための宣伝事業を提案します。
事業の実施内容	<ul style="list-style-type: none"> ・9月25日(日)クレアパークにて防災を遊んで学ぶイベント「あそぼうさい！まなぼうさい！」開催約500名に会場いただきました ・アクティブ防災専門家による講座を公開収録・放送 ・地域のアクティブ防災ラジオ座談会：生活の一部としての防災、いかに楽しく取り組めるか、専門家と自治会の活動を中心にお聞きしました。 ・おすすめ防災グッズ、防災食：災害時の為に何を、どれぐらい準備すれば良いのかを専門家にお聞きしました。 ・みんなの防災座談会：市民の方にゲストでお越しいただき、ふだんの防災のための心がけや準備などについてお聞きしました。
事業実施時における市との役割分担	小江戸FM：イベントや番組の企画、運営
	川越市防災危機管理室：情報提供、イベントチラシの市内小学校への全校配布、広報での告知。
事業の成果	昨年9月25日のクレアパークで開催された「あそぼうさい！まなぼうさい！」のイベントと公開収録を皮切りにラジオでは公開収録の模様を含め防災番組を4回に分けて放送しました。身近にできる「防災」に対しての取り組みや心掛けを考えるきっかけになりました。
協働事業として継続する場合の課題とその対応策	準備期間が短かったため、ゆとりを持ったスケジュールで準備をしたい。
補助金が終了した場合の当該事業の見直し	継続事業として、申請をさせていただき、引き続き広く市民に防災意識を高めるような取り組みを行っていきたい。

※様式第8号「川越市提案型協働事業補助金実績報告書」に添付してください。

令和4年度川越市提案型協働事業補助金 事業実績報告書

協働事業名称	川越市民オペラ「喜歌劇こうもり」コンサート事業
団体名	川越音楽文化振興会 川越市民舞台芸術プロジェクト
市担当課名	文化芸術振興課
事業の目的	演奏者の学びと交流を深めるとともに、一般市民に文化芸術に触れる機会を提供することにより地域文化の向上を図ることを目的としています。 オペラの楽しさを紹介し、来年度開催予定の本格的な市民オペラの本公演に足を運んでいただくきっかけ作りをするため、解説付きオペラ公演を実施します。 オペラは、オーケストラ・合唱・ソリスト・バレエなどのダンス・演劇などを1つの舞台で行う「総合芸術」と言われ、予算規模も大きいので県内でも市民の手で開催されるものは少ない状況です。そのため、オペラ公演を市民が主体となって行うということで、川越の芸術文化が活発であることを示すことができます。
事業の実施内容	ヨハン・シュトラウス2世作曲、オペラ「喜歌劇こうもり」の曲目を抜粋で、指揮者の解説を交えて演奏し、オペラの楽しさを紹介する。 指揮者、演出には東京芸術大学などで教鞭をとり、プロによる演奏会でも活躍している方をお呼びし、参加者には本格的なオペラの指導を受けられるようにする。 日時：令和4年9月4日(日)14:00開演 場所：ウエスタ川越 小ホール 入場料：1,000円 演奏者：オーケストラ・合唱一般公募、キャストはオーディション選出 公演時間：1時間40分 (休憩10分)
事業実施時における市との役割分担	【当団体】 事業の企画 広報用チラシ等のデザイン作成 会の運営 当日演奏会の運営 その他公演に関すること 【文化芸術振興課】 広報川越の掲載 ちらしの市内公共施設への配布 練習会場(公民館等)の事前確保 (今回は時期が間に合わなかったため未実施)
事業の成果	川越市で初の市民オペラ開催のための第一歩として、川越市との協働で、小編成で解説付きのオペラ公演事業が実施できた意義は大きいと感じています。 また、補助金があることで、入場料を低額に抑えることができ、多くの方に気軽に音楽文化に触れる機会を提供できました。 アンケートから、演奏参加者からも、来場してくださったお客様からも「大変良かった」との評価を多くいただき、参加者の今後の励みにもなった。 来年、令和5年9月17日には、ウエスタ川越にて「川越市民オペラ 喜歌劇「こうもり」」の本公演を予定しており、川越の文化振興のため、総合芸術であるオペラの本格的な公演に向け、大きな成果を上げることができた。
協働事業として継続する場合の課題とその対応策	資金の不安はもちろんです、何より、演奏者や来場のお客様がいないと始まらないので、協働事業として継続する場合は、川越市には今回同様、広報の部分でご協力いただきたいと思います。
補助金が終了した場合の当該事業の見通し	演奏者の学びと交流を深めるとともに、一般市民に文化芸術に触れる機会を提供するために、資金調達方法や広報方法等、模索していきます。

令和4年度川越市提案型協働事業補助金 事業実績報告書

協働事業名称	夜の公園たんけんー川越の生き物発見事業
団体名	川越次世代SDGs研究会
市担当課名	中央公民館、環境政策課
事業の目的	夜の動物観察などを通して川越の自然について楽しみながら多面的に学ぶ場を提供し、生物多様性保護に向け行動する市民を増やすことを通じ、川越市緑の基本計画の「生き物の生息・生育空間となる緑の保全」の達成に資する。
事業の実施内容	令和4年7月30日（土） 15:00～16:30 ユニクス川越前広場にて クイズや塗り絵で遊ぼうー「川越の生き物たいけんコーナー」 16:50～19:30 南公民館、仙波河岸史跡公園 夜の公園たんけんーコウモリとセミ羽化を観察しよう 令和4年9月24日（土） 14:00～17:30 大学生報告会（の中の一部） リモート
事業実施時における市との役割分担	団体 上記内容の企画運営すべて
	市 かわごえ環境ネット会員への周知 広報かわごえやホームページ等を通じたの市民への周知 市教委を通じたの市内小中学校、公民館への周知
事業の成果	<p>ユニクス川越で実施した「川越の生き物たいけんコーナー」については、動物の塗り絵14名、コウモリの大きさ比べ21名、コウモリのウンチを見よう19名、セミの抜け殻を見よう18名、川越の自然に関するクイズ10名の延べ82名の参加があった。多かったのは未就学児や小学校低学年であった。</p> <p>また南公民館および仙波河岸史跡公園で実施した「夜の公園たんけんーコウモリとセミ羽化を観察しよう」は、参加者予定者52名、参加者36名であった。学校別では、仙波小6、中央小7、新宿小3、月越小、高階北小、高階西小、霞が関東小が各1となり、直接訪問した3校で8割を占めた。学年別では1年6、2年2、3年3、4年5、5年1、6年3と低学年と高学年がほぼ同数となった。参加した子どもたちの感想としては、コウモリの超音波を聞けたり、セミの羽化が観察できて、普段できない経験ができ、楽しかった、いろいろな発見があったという肯定的な意見が大部分であった。</p> <p>またこれらのブースの運営や観察会の案内役として、芝浦工業大学学生22名が参加した。大学生にとってもコウモリやセミの羽化の観察は初体験の者が多くブースの運営や子どもたちに教えるということが貴重な経験になったというコメントが多かった。</p>
協働事業として継続する場合の課題とその対応策	学校に対して直接呼びかけないと参加者が集まりにくいことが明らかになった。またコウモリやセミの観察がしやすい場所がどこにでもあるわけではなく、また大学生をお世話係に充てることを考えても交通の便の良い場所でないという実施しにくい
補助金が終了した場合の当該事業の見通し	市内の子どもたちと大学生との交流を多様なテーマで進めたい。また、正課授業の中で取り組んでもらえるように働きかけていきたい。

令和4年度川越市提案型協働事業補助金 事業実績報告書

協働事業名称	新宿町五丁目 地域デジタル化																																		
団体名	新宿町五丁目自治会																																		
市担当課名	市民部 地域づくり推進課																																		
事業の目的	<p>新宿町五丁目内のICT化を図る目的で行います。新型コロナウイルス感染拡大で、ここ3年間、地域では今までの伝達や交流の方法では対応出来ない時期がありました。また新型コロナウイルスワクチン接種の予約支援、国県市から情報のデジタル発信、電子申告等に対し、特にシニアが「デジタル難民」になっている現状を目の当たりにしました。世の中は新しい生活様式でデジタル環境が急速に発達し、身近で便利なものになってきました。携帯電話のスマートフォン化等が進み、多くの人々がデジタル機器を所持しています。急速な高齢化「2025年問題」や災害等に備え、地域で在宅や移動せずに安否確認や交流等を図る体制を構築する必要もあります。</p>																																		
事業の実施内容	<p>自治会内にデジタル化特別委員会を置き、担当者を設けます。複数年かけて、身近で必要なところから改革に取り組みます。</p> <ul style="list-style-type: none"> 自治会発行のお知らせ、回覧物等のデジタル配信。→ホームページ立ち上げ、電子メールやSNS等を使用した一斉送信 等。 イベントの動画配信→ZOOMを使った講演会 等。 手持ちデジタル機器操作説明会の開催→スマホを使った、川越市ホームページ閲覧やテレビ電話操作 等。 シニアスポーツを通じた趣味や交流→ぶよぶよクエストで対戦、小学生作成ゲーム体験 等。 住民のデジタル環境の実態調査→アンケートによるデジタル環境調査 等。 通信環境の整備。→集会施設等のWi-Fiポイント設置 等。 デジタル安否確認訓練。→メール配信を使った安否確認 等。 																																		
事業実施時における市との役割分担	<p>提案団体が果たそうとする役割：住民の集まりである自治会の強みを活かし、計画～準備～募集～実施～検証のそれぞれを総合的にを行います。</p>																																		
	<p>川越市に期待する役割：所轄課へは、市地域政策の立案実行者として、当事業への助言、情報提供、更に事例研究や好事例の発信をしていただきました。</p>																																		
事業の成果	<table border="1"> <thead> <tr> <th>時期</th> <th>実施内容</th> <th>人数、回数等</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>4月7日～</td> <td>自治会集会所Wi-Fiの5G化</td> <td></td> </tr> <tr> <td>4月23日～</td> <td>自治会内にデジタル化特別委員会設置、担当者選任</td> <td>委員5人</td> </tr> <tr> <td>5月9日～</td> <td>ゴゴさろん等イベント録画開始</td> <td>4年中28回録画</td> </tr> <tr> <td>6月14日～</td> <td>ホームページ立ち上げ準備開始</td> <td>有料ソフト2種導入</td> </tr> <tr> <td>6月15日、11月16日</td> <td>シニアスポーツぶよぶよクエスト実施</td> <td>2回実施</td> </tr> <tr> <td>7月8日～</td> <td>SNS配信開始</td> <td>5種SNS4年中各34回 延7373人配信</td> </tr> <tr> <td>8月6日</td> <td>納涼盆踊り大会のライブ配信</td> <td>531回視聴</td> </tr> <tr> <td>9月4日</td> <td>町内防災訓練でデジタル無線安否確認訓練実施</td> <td>36台使用</td> </tr> <tr> <td>1月8日～2月</td> <td>デジタル機器使用状況アンケート調査</td> <td>75歳以上303人対象</td> </tr> <tr> <td>2月8日～</td> <td>手持ちデジタル機器操作説明会</td> <td>4年中4回予定</td> </tr> </tbody> </table>		時期	実施内容	人数、回数等	4月7日～	自治会集会所Wi-Fiの5G化		4月23日～	自治会内にデジタル化特別委員会設置、担当者選任	委員5人	5月9日～	ゴゴさろん等イベント録画開始	4年中28回録画	6月14日～	ホームページ立ち上げ準備開始	有料ソフト2種導入	6月15日、11月16日	シニアスポーツぶよぶよクエスト実施	2回実施	7月8日～	SNS配信開始	5種SNS4年中各34回 延7373人配信	8月6日	納涼盆踊り大会のライブ配信	531回視聴	9月4日	町内防災訓練でデジタル無線安否確認訓練実施	36台使用	1月8日～2月	デジタル機器使用状況アンケート調査	75歳以上303人対象	2月8日～	手持ちデジタル機器操作説明会	4年中4回予定
時期	実施内容	人数、回数等																																	
4月7日～	自治会集会所Wi-Fiの5G化																																		
4月23日～	自治会内にデジタル化特別委員会設置、担当者選任	委員5人																																	
5月9日～	ゴゴさろん等イベント録画開始	4年中28回録画																																	
6月14日～	ホームページ立ち上げ準備開始	有料ソフト2種導入																																	
6月15日、11月16日	シニアスポーツぶよぶよクエスト実施	2回実施																																	
7月8日～	SNS配信開始	5種SNS4年中各34回 延7373人配信																																	
8月6日	納涼盆踊り大会のライブ配信	531回視聴																																	
9月4日	町内防災訓練でデジタル無線安否確認訓練実施	36台使用																																	
1月8日～2月	デジタル機器使用状況アンケート調査	75歳以上303人対象																																	
2月8日～	手持ちデジタル機器操作説明会	4年中4回予定																																	
協働事業として継続する場合の課題とその対応策	<p>3G回線(いわゆるガラケー)から4G・5G回線(いわゆるスマホ)への移行が課題です。(サービス終了docomo2026年3月末、au2022年3月末、Softbank2024年1月下旬予定)。スピード感を持ち、どの世代もスムーズにデジタル化するために、デジタル機器操作説明会の継続開催や、安全に使用できるWi-Fi回線スポットを増やすことなどを今後対応します。</p>																																		
補助金が終了した場合の当該事業の見通し	<p>○3年間で地域デジタル化を図るために必要な投資や準備を済ませ、補助金が終了した後も当該事業を自治会として継続していく予定です。 ○地域デジタル化を市内の他の自治会が導入し、平準化するためのノウハウをマニュアル化し、所轄課を中心に広報していただき、広域で同様の事業が拡充されることを期待します。</p>																																		